

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 ハッピー仙台教室			
○保護者評価実施期間	2025年 7月 25日		～	2025年 8月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	48	(回答者数)	41
○従業者評価実施期間	2025年 7月 15日		～	2025年 7月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 8月 21日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	直接支援だけでなく、家族支援や関係機関連携等にも力を入れていることで、保護者様との関係構築を図ることができていること	保護者様のニーズに合わせ、家族支援を実施したり、研修会等を実施している。また、支援時に必ずフィードバックの時間を設け、保護者様と密に情報共有を行っている。他にもお子様が在籍している園と連携を図ったり、必要な機関の紹介等も行つことで途切れのない支援を意識的に行っている。	保護者様同士の繋がりを求めている方も多いため、保護者様同士が繋がれる機会をもっと活発に設けていく。また家族支援に関して、充実しているという意見がある一方、少ないという意見もあるため、家族支援の頻度にバラツキがないよう、こちらからお声がけしていくことを心掛けていく。
2	お子様一人ひとりの発達段階を踏まえ、個別支援計画を作成し、お子様の特性に合わせた支援を実施することができていること	児童発達支援管理責任者の見立てや考えだけではなく、多くの職員の見立てや意見を踏まえて個別支援計画を作り上げている。また、支援に入る際は、事前に個別支援計画と前回までのケース記録を読み込み、支援を組み立てていることで目標に向かった継続的な支援ができている。	お子様一人ひとりに合った支援を実施していくために、より一層専門性を高めていく必要がある。今後も社内の研修だけではなく、社外の研修にも積極的に参加し専門性を高めていく。
3	職員間での連携が図れている為、チーム支援ができおり、事業所全体が活気があり安心感が強いこと	支援の共有や、お子様の様子の共有だけではなく、発達特性にあった支援内容や新しい支援のアイデア等を隙間時間に自発的に共有し、チームで支援を考案している。また支援の内容や声掛けに関して、好事例があった場合には職員間で共有している。	今後も安心して通所していただくために、職員間のチームワークを高めていく。また、おおよそ職員間での報連相は実施できているが、職員間で情報共有がなされていないかったという意見もいただいているため、お子様に関する内容に関しては現状以上に丁寧に記録を残すことを徹底していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	施設自体が古く、施設が狭いこと	以前までは個別支援のニーズが高かったが、現在は集団支援のニーズも高まっており、複数名で支援することが増えている。活動に合わせて部屋を選定しているが、同時刻に活動量が多いお子様の利用が重なると、小さい部屋で集団支援を実施することもある。その際、少しでも部屋を広く使う工夫が必要であるが、配慮が足りていない。	増築することは難しいため、運動活動を行う際等、不要なものを撤去し、少しでも活動範囲を確保していけるよう心掛けていく。また、老朽化に関しては施設自体を新しくすることは現状難しいため、室内を清潔に保ち、少しでも過ごしやすい環境を整えていく。
2	様々な情報を発信しているが、必要な情報が保護者様に届いていないこと	研修動画のお知らせや、避難訓練の実施報告、イベント後の会報等、保護者様がわかりやすいようにモニタールームに掲示しているが、他にも様々な情報を発信しすぎてしまい、何が大事なのかわかりづらくなっている。	今年度より、れんらくアプリのコノベルを導入しているため、避難訓練の実施報告等はれんらくアプリを通してお知らせしていく。また必ず見てほしい情報に関しては掲示する場所を分ける等、わかりやすい工夫をしていく。
3	様々なイベントを実施しているが、参加して下さる方が固定化しつつある点	毎月れんらくアプリのコノベルにて、イベントを周知しているが、アプリが定着しておらず、見ていない方も多いため、イベントがあること自体知らないことも多い。特性や障害度合いによってイベント参加を悩まれている方も多い。	イベントの周知方法に関して、れんらくアプリだけではなく、必要に応じてポスターを掲示する等、みなさんに気づいてもらえるように改善していく。また今までイベントに参加したことがない方に対して、どんな内容やどんな形式であれば参加してみたいか等、支援時に聞き取りを行い、みなさんが楽しんで参加できるように内容を検討していく。